

ふりがな 氏名	はしもと ゆみ 橋本 侑美	職名	講師
取得学位	修士(看護学)	学会での受賞歴	
主な担当科目	未定		
所属学会	日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本新生児看護学会、小児在宅研究会、日本救急看護学会、日本蘇生学会、日本看護科学学会(令和3年12月～若手の会、エリアコーディネーター)、日本看護研究学会、日本看護シミュレーションラーニング学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 健康障害を呈するこどもと家族に必要な看護を見出し、実践することを目的とした、小児病棟での受け持ち看護実習 健康なこどもの成長、発達、生活環境を理解することを目的とした保育園実習 こどもと家族のありたい姿について考えるための、学内グループワーク実習 (愛知きわみ看護短期大学、小児看護学実習) 	平成30年5月～平成31年3月	愛知きわみ看護短期大学看護学科の3年生を対象とした「小児看護学実習」において、小児看護学領域講師(科目責任者)として臨地実習指導を担当した。保育園実習4日間、病棟実習4日間を通して、あらゆる健康レベル・発達段階にあるこどもと家族を理解して、看護実践を行うことができるように支援した。再実習・追実習・再履修については、学内演習を再度行い、自らの思考を整理して、学びを深めることができるように支援した。
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 チームで看護を実践することを学習するために、固定チームナーシングを経験することのできる実習方法の構築(複数患者の受け持ち看護実習) 多職種との関わり(看護師、保育士、セラピスト他)を体験することができる実習方法の構築と臨床講義の実施 リーダー、メンバー役割を実践することを目的としたシャドーイング実習 (愛知きわみ看護短期大学、統合看護学実習) 	平成30年11月～平成31年3月	愛知きわみ看護短期大学看護学科の3年生を対象とした「統合看護学実習」において、小児看護学領域講師(科目責任者)として臨地実習指導を担当した。学生がチーム内で役割分担を行い、受け持ち患児の外来から病棟、退院後の初回外来までの看護を継続して実践することができるように支援した。チーム内で生じた課題は、指導者の助言のもと、改善策を検討し、病棟チームの一員として学びを深めることができるように支援した。
<ul style="list-style-type: none"> 臨床と共同して作成した、看護過程事例の活用(急性リンパ性白血病・川崎病・RSウイルス感染症) グループワークと発表、解説を組み合わせた看護過程演習の実施 事例を基にした状況設定シミュレーション演習 自作の視覚的教材を用いた技術演習 (一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護Ⅱ) 	平成31年4月～令和元年7月	一宮研伸大学看護学部の3年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」において、小児看護学領域助教として講義・演習を担当した。講義では、グループワークや事例検討を活用し、学生が疾患の理解を深め、患児の状態の変化や治療状況の変化に合わせて、必要な看護を考えることができるように支援した。演習では、事例や視覚的教材を用い、実際の現場の状況を補足することで、学生のイメージが膨らむように支援した。
<ul style="list-style-type: none"> グループワークを通じた、看護過程演習・学生のグループワーク活動の促進と記録指導 視覚的教材を用いた演習(患者理解の促進) (一宮研伸大学、基礎看護学Ⅴ) 	平成31年4月～令和元年7月	一宮研伸大学看護学部の2年生を対象とした「基礎看護学Ⅴ」において、小児看護学領域助教として科目責任者とともに講義・演習を担当した。学生が、事例をもとに「ヘンダーソン」の理論と枠組みを用いた看護過程の展開を行い、情報収集～看護計画の立案(アセスメント、統合の記載)をできるように支援した。学生が混乱している枠組みの理解や関連図の意味について、事例の患者を通して、学生が自分の言葉で説明できるよう、支援した。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> 既存の学びを実践に活用することを目的とした臨地実習指導方法の工夫（看護過程） コミュニケーション能力を促進するための受け持ち看護実習の工夫 看護職としての責任感を養うための受け持ち看護実習の工夫 (一宮研伸大学、基礎看護学実習Ⅱ) 	令和元年 8月～9月	<p>一宮研伸大学看護学部3年生を対象とした「基礎看護学実習Ⅱ」において、小児看護学領域助教として科目責任者と共に臨地実習指導を担当した。学生が「ヘンダーソン」の理論と枠組みを用いて、受け持ち患者のニーズを把握し、看護実践に繋げることができるように支援した。また、病棟指導者とともに、受け持ち患者とのコミュニケーションや看護援助場面に参加する機会を積極的に持つことができるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者会議の開催 シミュレーション演習、発達評価演習、危険予知トレーニングを活用した学内代替実習 国家試験問題を実習課題に取り込んだ学習支援 (一宮研伸大学、こども健康生活支援実習) 	令和元年10月～令和2年7月	<p>一宮研伸大学看護学部3年生、4年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。実習要項を作成し、病棟実習の主担当、外部施設との調整業務を担当した。</p> <p>COVID-19感染拡大に伴う学内代替実習では、シミュレーション演習、発達評価演習、危険予知トレーニング、国家試験を用いた課題学習を行い、学内実習においても、学生が本来の実習目標を達成できるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を明確にするための実習オリエンテーションの工夫 学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者との打ち合わせ 学びを振り返りを促進するための、グループカンファレンスの工夫 電子書籍を用いた学習支援 (一宮研伸大学、基礎看護学実習Ⅰ) 	令和2年2月	<p>一宮研伸大学看護学部2年生を対象とした「基礎看護学実習Ⅰ」において、小児看護学領域助教として、科目責任者と共に臨地実習指導を担当した。個々の学生が1名の患者を受け持ち、日常生活援助の見学・実践、バイタルサイン測定の実施と患者の全身状態の評価ができるように支援した。学生が1日の実習目標を明確にし、受け持ち患者とのコミュニケーションや看護援助場面に参加する機会を積極的に持つことができるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 課題演習とグループワークを活用したゼミナール（レポートの書き方、報告、発表の仕方、文献検索） マルチメディア機器を用いた Word・Excel・PowerPoint の基本操作学習 テーマに沿った、文献検索の実施 オンライングループワーク Word・Excel・PowerPoint を用いた論文抄読会 (一宮研伸大学、教養ゼミナール) 	令和2年4月～3月 令和3年4月～11月	<p>一宮研伸大学看護学部1年生を対象とした「教養ゼミナール」において、小児看護学領域助教として科目責任者と共にゼミナールを担当した。課題学習とグループワーク学習を基盤とし、レポートの書き方、文献検索、パソコンの基本操作の理解を促進した。また、学生が選んだ原著論文を文献リストにまとめ、発表できるように支援した。グループワーク、論文の抄読会を通して、個々の学生が自分の意見を言語化することを支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用したオンデマンド講義（講義、演習動画を動画でオンデマンド配信） ICT を活用した双方向グループワーク（Google meet を用いたオンライン学習） ワークシートを活用した事前、事後学習の促進 感染に配慮した学内演習の実施 臨床と共同して作成した看護過程の事例作成（急性リンパ性白血病・川崎病・RS ウイルス感染症） グループワークと発表、解説を組み合わせた看護過程演習の実施 自作の視覚的教材を用いた技術演習 事例を基にした状況設定シミュレーション演習 (一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護Ⅱ) 	令和2年4月～7月	<p>一宮研伸大学看護学部3年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」において、小児看護学領域助教として講義・演習を担当した。対面授業の代替として、ワークシートに基づき、講義を YouTube で配信し、学生の理解を深めた。看護過程は、Google meet を使用したオンライン講義とし、グループワークが行える環境を整えた。演習科目は、講義時間数や配使用教室を増やし、事前に演習で用いる DVD を YouTube 動画で視聴することで、演習での学びを促進した。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の開催 ・チームで看護を実践することを学習するために、固定チームナーシングを経験することのできる実習方法の構築（複数患者の受け持ち看護実習） ・多職種との関わり（看護師、保育士、セラピスト他）を体験することができる実習方法の構築と臨床講義の実施 ・リーダー、メンバー役割を実践するためのシャドーイング実習の工夫 ・外来と病棟を連携した継続看護実習を体験することができる実習方法の構築 ・地域で生活することもと家族の理解を深めるための工夫（児童館、子育て支援センター、乳幼児健診の体験実習） <p>（一宮研伸大学、総合看護実習）</p>	令和 2 年 9 月	<p>一宮研伸大学看護学部 4 年生を対象とした「総合看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。病棟実習では、病棟・外来を連携した複数受け持ち看護実習を行い、入院から退院までの継続看護を経験した。また、チーム内で、リーダー、メンバー役割を経験できるように支援した。児童館、子育て支援センター実習、乳幼児健診の体験を行い、地域の中で生活することもと家族を包括的に理解することを支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施（学内代替実習版を含む） ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の実施 ・Zoom を活用したグループワークの促進 ・発達評価演習、危険予知トレーニングを活用した学内代替実習 ・国家試験問題を実習課題に取り込んだ学習支援 ・教育用電子カルテとシミュレーション演習を併用した学内代替実習 ・Zoom を用いて臨床と遠隔で協働した学内代替実習 <p>（一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護実習）</p>	令和 2 年 9 月～令和 3 年 7 月	<p>一宮研伸大学看護学部 3 年生、4 年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。実習要項を作成し、病棟実習の主担当、外部施設との調整業務を担当した。学内代替実習では、教育用電子カルテ教材とシミュレーション演習を行い、看護実践場面臨床と遠隔で共有した。学生が臨地実習指導者から助言をもらい、本来の実習目標を達成できるように支援した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用した講義とグループワークの工夫（Zoom を用いたオンライン学習、自作の講義・演習動画をオンデマンドで配信） ・ワークシートを活用した事前、事後学習の促進 ・感染に配慮した学内演習の実施 ・臨床と共同して作成した看護過程の事例作成（急性リンパ性白血病・川崎病・RS ウイルス感染症） ・グループワークと発表、解説を組み合わせた看護過程演習 ・自作の視覚的教材を用いた技術演習 ・事例を基にした状況設定シミュレーション演習 <p>（一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護Ⅱ）</p>	令和 3 年 4 月～7 月	<p>一宮研伸大学看護学部 3 年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」において、小児看護学領域助教として講義・演習を担当した。事前課題に基づき、講義中に事例展開を行い、患児と家族をイメージすることができるように支援した。看護過程演習は解説とグループワーク、課題提出を組み合わせ、学生の理解を促した。演習科目は、講義時間数や使用教室を増やし、事前に演習で用いる DVD を YouTube 動画で視聴することで、演習での学びを促進した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・課題演習とグループワークの活用したゼミナール（レポートの書き方、文献検索の方法と実践、文献クリティック） ・テーマに沿った、文献検索とクリティック ・テーマに沿った文献検討結果の発表 ・オンライングループワーク <p>（一宮研伸大学、連携ゼミナールⅠ）</p>	令和 3 年 4 月～令和 3 年 11 月	<p>一宮研伸大学看護学部 2 年生を対象とした「連携ゼミナールⅠ」において、小児看護学領域助教として科目責任者とともにゼミナールの担当を行った。ゼミナールはグループワーク形式で実施し、課題テーマの決定、文献検索、文献リストの作成、論文抄読会を行い、先行研究のまとめを最終課題とした。文献抄読会、中間発表、最終発表会を行い、関心を持ったテーマに対する先行研究のまとめ考察できるように支援した。</p>

事 項	実 施 年月(日)	概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の開催 ・チームで看護を実践することを学習するために、固定チームナーシングを経験することのできる実習方法の構築（複数患者の受け持ち看護実習） ・多職種との関わり（看護師、保育士、セラピスト他）を体験することができる実習方法の構築と臨床講義の実施（オンライン会議の実施） ・リーダー、メンバー役割を体験するために、多重課題を用いたシミュレーション演習の工夫 ・地域で生活することもと家族の理解を深めるための実習施設の工夫（児童館） （一宮研伸大学、総合看護実習） 	令和3年9月	一宮研伸大学看護学部4年生を対象とした「総合看護実習」において、小児看護学領域助教として実習指導を担当した。多重課題事例を作成し、状況設定シミュレーションを臨地と遠隔で共有することで、学内実習ではあったが、実習室での複数受け持ち看護実習を再現する工夫を行った。Zoomを通して指導者に報告や相談を行い、助言をもらう経験を行うことで、臨地実習で経験するチーム看護を学習することができるように支援した。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を明確にするためのシラバス、実習要項、記録用紙の作成と、オリエンテーションの実施 ・学生の学びを促進することを目的とした、臨地実習指導者とのオンライン会議の開催 ・国家試験課題を用いた事前学習の工夫 （一宮研伸大学、こどもの健康生活支援看護実習） 	令和3年9月～11月	一宮研伸大学看護学部3年生を対象とした「こどもの健康生活支援看護実習」において、小児看護学領域助教として臨地実習指導を担当した。病棟との調整業務、保育園実習における書類提出等の調整業務を担当した。病棟実習では4日間で学生が受け持ち患児の看護過程の展開・実践・評価ができるように支援した。病棟実習に必要な知識について、国家試験課題を用いて、理解を深める工夫を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・紙面事例を用いた看護過程の展開と状況設定シミュレーション演習の実施 （名古屋女子大学、小児看護援助論II） 	令和4年4月～7月	名古屋女子大学健康科学部看護学科3年生を対象とした「小児看護援助論II」において、小児看護学領域講師として科目責任者と共に、紙面事例を用いた看護過程の展開と小児看護技術演習を担当した。看護過程の展開では、グループワークでのアセスメントの視点、看護問題抽出の視点について助言を行い、個人ワーク、グループワークが進むように支援した。演習では、具体的な事例や看護過程の展開で自身が立案した看護計画を基に、看護実践を行うことを支援した。
<ul style="list-style-type: none"> ・机上事例を用いた多重課題代替実習の実践 （名古屋女子大学、看護学統合実習） 	令和4年4月	名古屋女子大学健康科学部看護学科4年生を対象とした「看護学統合実習」において、科目責任者と共に臨地実習を担当した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い病棟実習が困難となった状況において、学内で受け持ち患者に起こりうることを想定し、チームで複数看護受け持ちを行うための机上シミュレーション演習を実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した講義とグループワークの工夫 ・対象の理解を促進するための教育用電子カルテ教材の利用とシミュレーション演習の実践 ・ゲストスピーカーによる臨床講義と事例を用いた机上演習の実施 （名古屋女子大学、小児看護援助論I） 	令和4年9月～令和5年2月	名古屋女子大学健康科学部看護学科2年生を対象とした「小児看護援助論I」において、小児看護学領域講師（科目責任者）として、講義・演習を行った。健康障害のある子どもと家族の理解を促進するために、講義、演習（教育用電子カルテ教材を用いた受け持ち患児の情報収集と看護計画の立案、実践）を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習と学内シミュレーション演習を組み合わせたハイブリッド型実習の実践 ・教育用電子カルテ教材とシミュレーターを用いた学内実習の実践 （名古屋女子大学、小児看護学実習） 	令和4年9月～令和5年	名古屋女子大学健康科学部看護学科3年生を対象とした「小児看護学実習」において、小児看護学領域講師（科目責任者）として、臨地実習を担当した。病棟実習と幼稚園（保育園）実習を1週間ずつ行うことで、健康レベルに合わせた看護について学ぶことを支援した。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、臨地実習が困難となった施設においては、教育用電子カルテ教材を用いた看護過程の展開と臨地

事 項	実 施 年月(日)	概 要
		実習(見学実習)、シミュレーション演習を組み合わせたハイブリッド型実習を行うことで、学生が、対象に合わせた看護を行うことを支援した。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
著 書	100 Women's Life 様々な困難を乗り越えてきた女性 100 人の物語	共	令和 4 年 10 月	有限会社 人の森	
論 文	「小学生に対する心肺蘇生教育の実践と検討」～教育前後の知識及び救命に対する気持ちの変化の考察から～(査読あり)	共	令和 2 年 3 月	平成 29 年度愛知県看護協会研究助成報告論文集	橋本侑美、西村あゆ美 p.26-35
	教育用電子カルテ教材を用いた小児看護学領域代替実習の実践報告－臨地と遠隔で協働した状況設定シミュレーション－(査読あり)	共	令和 4 年 2 月	一宮研伸大学看護学部紀要、第 1 巻	橋本侑美、田前英代、加藤千明 p.27-32
	臨地実習施設と遠隔で協働した小児看護学領域の代替実習	単	令和 4 年 8 月	小児看護、45(8)	橋本侑美、p.920-926
	小学 5.6 年生を対象とした心肺蘇生教育の効果と児童が感じたこと	共	令和 4 年 11 月	日本小児看護学会誌、31 巻	橋本侑美、大橋麗子、p.211-218
	小児看護学領域代替実習における学生の特性的自己効力感と学習意欲	共	令和 5 年 3 月	名古屋女子大学紀要、第 69 号	橋本侑美、北得美佐子、石井成郎、p.75-88
学会発表	BLS を命の授業につなげるための教育方法の検討～小学生に対する BLS 教育における教育前後の振り返りからの考察～(査読あり)(口頭発表)	共	平成 30 年 7 月 21-22 日	第 28 回日本小児看護学会学術集会(名古屋)	橋本侑美、西村あゆ美 p.96
	「命の授業につなげるための心肺蘇生教育の実践」～児童の教育前後における BLS 手技の自信の程度と教育を通して感じたことの考察～(査読あり)(口頭発表)	共	令和 2 年 6 月 27-28 日	第 30 回日本小児看護学会学術集会(神戸) *オンライン開催	橋本侑美、西村あゆ美 p.126
	NICU を持たない施設の看護職を対象とした新生児蘇生法(NCPR)継続教育の実態調査～実践につながる教育方法の検討を目指して～(査読あり)(口頭発表)	共	令和 3 年 6 月 26 - 27 日	第 31 回日本小児看護学会学術集会 *オンライン開催	橋本侑美、井上真理子、田中理恵、長瀬光莉、伊藤礼美 p.100

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
学会発表	NICU を持たない施設における新生児蘇生法講習会後の実態調査～A 病院小児病棟の現状と課題～ (査読あり)(口頭発表)	共	令和 3 年 6 月 26 - 27 日	第 31 回日本小児看護学会学術集会 *オンライン開催	伊藤礼実、長瀬光莉、 <u>橋本侑美</u> 、田中理恵、井上真理子 p.99
	NCPR 受講後の活用状況の実態と課題～NICU を持たない施設における小児病棟・産科病棟・手術室スタッフの現状～ (査読あり)(ポスター発表)	共	令和 3 年 9 月 28 - 29 日	第 52 回日本看護学会学術集会 *オンライン開催	井上真理子、田中理恵、 <u>橋本侑井上真理子美</u> p.245
その他	一宮市支援センター講習会 「こんなときどうする?! こどもの事故と急病時の対応」		令和 3 年 4 月 28 日	令和 3 年一宮市子育て支援センター講習会(育児講習会)	<u>橋本侑美</u> 令和3年度版いちのみや子育て支援ハンドブック p.1
	乳幼児のかかりやすい病気・事故とその対応		令和 4 年 7 月	令和4年家庭教育支援ボランティア養成講座(愛知県一宮市)	<u>橋本侑美</u>
	ICT を活用した講義・演習・代替実習 教育用電子カルテ「Medi-EYE」を用いて「見学実習とシミュレーション演習を組み合わせたハイブリッド型実習」		令和4年10 月	株式会社 南江堂 Nur SHARE	https://www.nurshare.jp/article/detail/10269